

PAT-NO: JP411237024A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11237024 A
TITLE: SLAG TAPPING DEVICE FOR ASH MELTING FURNACE
PUBN-DATE: August 31, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NISHINO, JUNYA	N/A
MATSUZAWA, KATSUAKI	N/A
TAWARA, KENICHI	N/A
UMEDA, JUJIRO	N/A
SUZUKI, TOSHIYUKI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ISHIKAWAJIMA HARIMA	N/A

HEAVY IND CO LTD

APPL-NO: JP10039916
APPL-DATE: February 23, 1998

INT-CL F23J001/00 , B09B003/00 , B09B003/00 , F27B003/19 ,
(IPC): F27D003/14

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To remove the discharge work of metal alone by making a slag tapping device have an exit port for molten slag and a discharge port for molten metal in common and performing the discharge of molten slug and the discharge of molten metal at the same time.

SOLUTION: This is the slag tapping device of an ash melting furnace 1 which melts ash by applying DC between the main electrode 7 inserted from the top of the furnace and a furnace-bottom electrode 9 provided at the bottom of the furnace, and the slag tapping device comprises a slag exit port 3 provided at the bottom of the furnace wall and an auxiliary electrode 8 provided in parallel with the main electrode 7 so that the bottom may come close to the slag exit port 3, and the slag exit port 3 is made in cylindrical form, having a through hole 4a at the center, and it is made of a cartridge brick capable of setting and removal wherein an electric heater 6 is embedded, and it is so arranged as to discharge molten slag 11 and metal 12 at the same time.

COPYRIGHT: (C) 1999, JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-237024

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月31日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I
F 2 3 J 1/00		F 2 3 J 1/00 B
B 0 9 B 3/00	Z A B	F 2 7 B 3/19
		F 2 7 D 3/14 Z
F 2 7 B 3/19		B 0 9 B 3/00 Z A B
F 2 7 D 3/14		3 0 3 L
審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)		

(21) 出願番号 特願平10-39916

(22) 出願日 平成10年(1998) 2月23日

(71) 出願人 000000099

石川島播磨重工業株式会社
東京都千代田区大手町 2 丁目 2 番 1 号

(72) 発明者 西野 順也

神奈川県横浜市磯子区新中原町 1 石川島
播磨重工業株式会社技術研究所内

(72) 発明者 松澤 克明

神奈川県横浜市磯子区新中原町 1 石川島
播磨重工業株式会社技術研究所内

(72) 発明者 田原 賢一

神奈川県横浜市磯子区新中原町 1 石川島
播磨重工業株式会社技術研究所内

(74) 代理人 弁理士 島村 芳明

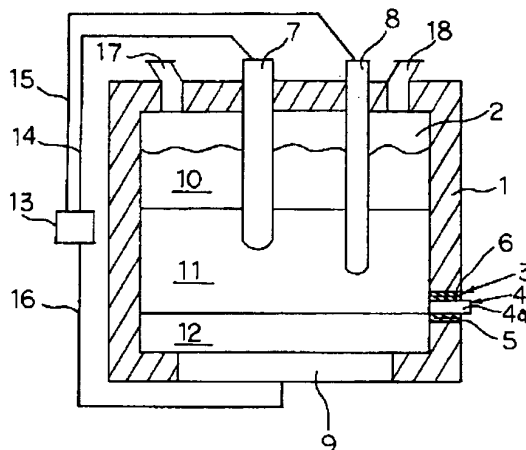
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 灰溶融炉の出滓装置

(57) 【要約】

【課題】 溶融スラグの出滓口と溶融メタルの排出口とを共有させ、溶融スラグの出滓と溶融メタルの排出とを同時に行い、メタル単独の排出作業をなくす。

【解決手段】 炉頂から挿入された主電極 7 と炉底に設けられた炉底電極 9 との間を直流通電して灰溶融を行う灰溶融炉 1 の出滓装置であって、出滓装置は炉壁の下部に設けた出滓口 3 と、下端が出滓口 3 近傍になるように主電極 7 と並列に設けられた補助電極 8 とからなり、出滓口 3 は中央に貫通孔 4 a を有して円筒状に形成され、電気ヒータ 6 を埋め込んだ嵌脱可能なカートリッジレングにより形成されており、溶融スラグ 11 とメタル 12 とを同時に出滓するようになっている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 炉頂から挿入された主電極と炉底に設けられた炉底電極との間を直流通電して灰熔融を行う灰熔融炉の出滓装置であって、出滓装置は炉壁の下部に設けた出滓口と、下端が出滓口近傍になるように主電極と並列に設けられた補助電極とからなり、出滓口は中央に貫通孔を有して円筒状に形成され、電気ヒータを埋め込んだ嵌脱可能なカートリッジレンガにより形成されており、熔融スラグとメタルとを同時に排出するようになっていることを特徴とする灰熔融炉の出滓装置。

【請求項2】 前記カートリッジレンガは、中央に貫通孔を有する出滓用レンガとそれを囲繞する電気ヒータを埋め込んだ加熱用レンガとから構成されており、出滓用レンガは嵌脱可能になっている請求項1記載の灰熔融炉の出滓装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、都市ごみや産業廃棄物を焼却したときに発生する飛灰や焼却灰を熔融固化する灰熔融炉の出滓装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】都市ごみ、下水汚泥等の各廃棄物は、焼却施設で焼却処理され、生じた飛灰や焼却灰は、従来埋め立て処分されていた。しかし、埋立処分地枯渇の問題や有害重金属類の溶出による地下水汚染の問題があるため、熔融による減量・減容化と無害化の必要性が高まっている。

【0003】このような背景で、焼却灰中の残留炭素、コークス、灯油および電力を熱源とした焼却炉等から排出される飛灰や焼却灰などを熔融処理する灰熔融炉が提案され、一部で実処理が行われている。このうち電力を熱源とした灰熔融炉としてプラズマアーク加熱方式と電気抵抗加熱方式がある。

【0004】図3は従来の電気抵抗式灰熔融炉の縦断面図である。図において、aは灰熔融炉である。bは灰熔融室である。cは灰熔融炉aの中間に設けた熔融スラグをオーバーフローさせて出滓する出滓口である。dは灰熔融炉aの頂部に設けた主電極であり、eは主電極dと上下に対峙するように設けた炉底電極である。fは灰熔融炉aの頂部に設けた灰投入口で、図示しないコンベヤなどにより搬送された飛灰や焼却灰を灰熔融室b内へ投入する。gは灰熔融炉aの頂部に設けた排ガス排出口である。hは灰熔融室b内に投入された飛灰や焼却灰などの灰固体層であり、iは熔融スラグである。jはメタル層である。kは主電極dと炉底電極eとの間に直流電気を流す電源であり、mおよびnはその電線である。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】上記灰熔融炉は、熔融スラグをオーバーフローさせて連続出滓し、灰熔融室底部に溜まったメタル層は、メタル層のレベルを常に検知

しながら定期的に排出している。メタル層の温度は、炉底電極を保護するためあまり上げないようにしているもので、メタル層は上面だけわずかに熔融しているがほとんど固化している。メタルを排出するときは、熔融スラグを出滓した後、主電極との間にアークを発生させてメタル層を熔融し、メタル排出口をドリルなどによりあけてメタル排出口から外部に排出しなければならない。

【0006】本発明は、上記のような問題点を解決するために創案されたもので、灰熔融炉の出滓口を、熔融スラグの出滓口とメタルの排出口に共用させ、熔融スラグの出滓とメタルの排出を同時に行うようにしてメタル単独の排出作業を無くし、かつ、熔融スラグの流量を制御しながら出滓して灰熔融炉の操業の簡素化を図るとともに、出滓口の交換を容易にすることを目的とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、本発明によれば、炉頂から挿入された主電極と炉底に設けられた炉底電極との間を直流通電して灰熔融を行う灰熔融炉の出滓装置であって、出滓装置は炉壁の下部に設けた出滓口と、下端が出滓口近傍になるように主電極と並列に設けられた補助電極とからなり、出滓口は中央に貫通孔を有して円筒状に形成され、電気ヒータを埋め込んだ嵌脱可能なカートリッジレンガにより形成されており、熔融スラグとメタルとを同時に排出するようになっている灰熔融炉の出滓装置が提供される。

【0008】本発明の好ましい実施形態によれば、前記カートリッジレンガは、中央に貫通孔を有する出滓用レンガとそれを囲繞する電気ヒータを埋め込んだ加熱用レンガとから構成されており、出滓用レンガは嵌脱可能になっている。

【0009】次に本発明の作用を説明する。灰熔融炉の灰熔融室内に投入された飛灰や焼却灰は、灰熔融室内に配設された主電極と炉底電極により加熱されて熔融スラグになる。灰熔融炉の出滓口は炉壁の下部に設けられており、熔融スラグは出滓口から連続的に出滓される。出滓する際、出滓口近傍に設けられた補助電極により出滓口近傍の熔融スラグを再加熱するとともに、出滓口を内部に埋め込んだ電気ヒータにより加熱して熔融スラグの粘度を制御することにより流量を調節しながら出滓口から出滓する。一方、熔融メタルは、灰熔融室底部に溜まっていて、メタル層上面からオーバーフローして熔融スラグとともに出滓口から出滓する。したがって、メタル単独の排出作業を無くすことができ、また、出滓口は嵌脱可能なカートリッジレンガにより形成されていて、メンテナンスを容易に行うことができる。出滓口は出滓用レンガと加熱用レンガとを同時に交換してもよい。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の好ましい実施形態

3

4

を図面に基づいて説明する。図1は本発明の一実施形態を示すもので、本発明による灰溶融炉の出滓装置の縦断面図であり、図2は出滓口の拡大斜視図である。図1および図2において、1は飛灰や焼却灰を溶融処理する灰溶融炉であり、2は灰溶融室である。3は灰溶融炉1の炉壁の下部に嵌脱可能に設けられたカートリッジレンガにより形成された出滓口で、溶融スラグ10と溶融メタル11とを同時に排出する。4は出滓口3の中央に貫通孔4aを有して円筒状に形成された出滓用レンガである。5は出滓用レンガ4を囲繞する電気ヒータ6を埋め込んだ加熱用レンガである。7は灰溶融炉1の頂部から挿入された主電極であり、8は主電極7と同様に、灰溶融炉1の頂部から挿入され、下端が出滓口3の近傍になるように主電極7と並列に設けられた補助電極である。9は灰溶融炉1の底部に、主電極7、補助電極8と上下に対峙するように埋設した炉底電極である。13はこれら主電極7、補助電極8と炉底電極9に直流通電する電源であり、14、15および16はその電線である。

【0011】10は灰溶融室2内に投入された飛灰や焼却灰などの灰固体層で、未溶融の状態の溶融スラグ層11の上に浮いた状態となっている。12は灰溶融炉1の炉底に溜まった溶融メタル層であり、その上面からオーバーフローして溶融スラグ11の出滓と同時に出滓口3を通して外部に排出する。

【0012】17は灰溶融室2の頂部に設けた灰投入口で、図示しないコンベヤなどにより搬送された飛灰や焼却灰を灰溶融室2内に投入する。18は灰溶融室2の頂部に設けた排ガス排出口である。

【0013】次に本実施形態の作用について説明する。灰溶融炉1の灰溶融室2内に投入された飛灰や焼却灰は、灰溶融室2内に配設された主電極7と炉底電極9により加熱されて溶融スラグ11になる。灰溶融炉1の出滓口3は炉壁の下部に設けられており、溶融スラグ11は出滓口3から連続的に出滓される。出滓する際、出滓口3近傍に設けられた補助電極8により出滓口3近傍の溶融スラグ11を再加熱するとともに、出滓口3を内部に埋め込んだ電気ヒータ6により加熱して溶融スラグ11の粘度を制御することにより流量を調節しながら出滓口3から出滓する。一方、焼却灰に含まれる鉄などの金属が溶融して生じた溶融メタル12は、灰溶融室2底部に溜まり、溶融メタル層12の上面からオーバーフロー

して溶融スラグ11とともに出滓口3から出滓する。したがって、溶融メタル12単独の排出作業を無くすることができる。また、出滓口3は嵌脱可能なカートリッジレンガにより形成されており、消耗の激しい出滓用レンガ4を交換すればよいので、メンテナンスが容易である。出滓口3は出滓用レンガ4と加熱用レンガ5とを同時に交換してもよい。

【0014】本発明は、上記実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々変更し得ることは勿論である。

【0015】

【発明の効果】以上述べたように、本発明によれば、溶融スラグの流量を調節しながら出滓すると同時に、同じ出滓口から溶融メタルも出滓するので、定期的に行われるメタル単独の排出作業を無くすることができる。また、出滓口は嵌脱可能なカートリッジレンガにより形成されているので、メンテナンスが容易であるなどの優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による灰溶融炉の出滓装置の縦断面図である。

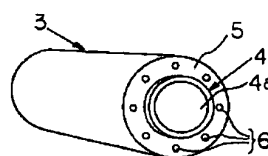
【図2】出滓口の拡大斜視図である。

【図3】従来の電気抵抗式灰溶融炉の縦断面図である。

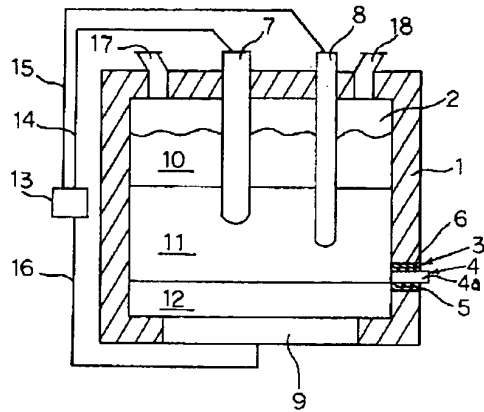
【符号の説明】

- 1 灰溶融炉
- 2 灰溶融室
- 3 出滓口
- 4 出滓用レンガ
- 5 加熱用レンガ
- 6 電気ヒータ
- 7 主電極
- 8 補助電極
- 9 炉底電極
- 10 灰固体層
- 11 溶融スラグ層
- 12 溶融メタル層
- 13 電源
- 14, 15, 16 電線
- 17 灰投入口
- 18 排気ガス排出口

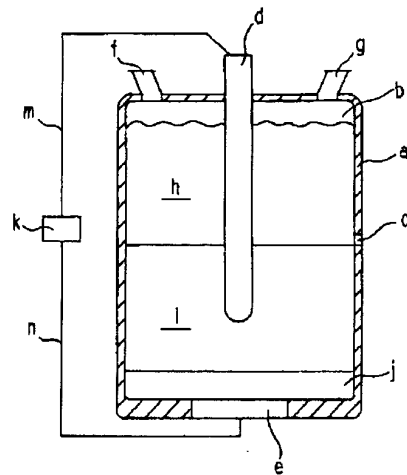
【図2】



【図1】



【図3】



フロントページの続き

(72)発明者 梅田 十次郎
東京都江東区豊洲二丁目1番1号 石川島
播磨重工業株式会社東京第一工場内

(72)発明者 鈴木 俊行
東京都江東区豊洲二丁目1番1号 石川島
播磨重工業株式会社東京第一工場内